

## 新規ショッピングモールの開業

バンコクデスク 金澤 厚

### 1 はじめに

日本で2024年7月の訪日客数が329万人となり、前年同月比41.9%増となったというニュースがありました。2024年の1月～7月までの累計が2,106万人となり、2,000万人の大台を最速で突破したとのことでした。

タイでも今年7月の外国人来訪者数は310万人で、前年同月比24.6%増と増加傾向が続いています。同様に今年の累計では2,060万人となっています。これは、93カ国・地域からの旅行者に対する入国ビザ(査証)免除措置が要因とされています。

タイの観光客の行き先としては、バンコク市内の寺院、マッサージなどが真っ先に候補になりますが、ショッピングモールでの買い物も選択肢のひとつではないでしょうか。

### 2 既存のショッピングモール

まずは**アイコンサイアム**があります。アイコンサイアムは2018年11月開業で、チャオプラヤー川沿いに立地しています。BTS(スカイトレイン)のサパーンタクシン駅からシャトルボートで近づく大きくそびえ立っていて、2棟のコンドミニウムを含めタイ最大級とされています。



アイコンサイアム (筆者撮影)

施設内には水上マーケットを模したタイの各地方の物産展のような広大なエリアがあり、お土産物を買ったり、屋台風のお店でタイのローカルフード、スイーツを食べたりすることができます。併設のステージではタイの民族音楽、舞踊を見ることもできます。エアコンが効いた施設内で快適に、しかも一か所でタイ各地のローカルな雰囲気を楽しむことができます。

また、毎日夜間3回の噴水ショーがあり無料で見ることができます。上層階のカフェやレストランのテラス席からの噴水ショーや川沿いの夜景は一見の価値があると思います。

施設前の船着き場からは有名寺院、他の観光スポットに行くこともできるため、多くの観光客でにぎわっています。

2023年12月には**エムスフィア**が開業しました。スクンビットエリアの中心ともいえるBTS プロンボン駅から連絡通路でつながっています。このエリアには従来からエンポリアム、エムクオーティエというショッピングモールがありますが、同じ系列とのこと

です。施設は地上6階建て、延床面積約20万㎡とのこと。施設は地上6階建て、延床面積約20万㎡とのこと。施設は地上6階建て、延床面積約20万㎡とのこと。施設は地上6階建て、延床面積約20万㎡とのこと。

施設は地上6階建て、延床面積約20万㎡とのこと。施設は地上6階建て、延床面積約20万㎡とのこと。施設は地上6階建て、延床面積約20万㎡とのこと。

トスペースを備えている点に特徴があるようです。この開発企業は、バンコクのエンタメ需要を開拓し、コト消費の拡大を狙っています。イベントスペースの収容人員は6千人とのことで、有名アーティストのコンサートも開かれています。



エムスフィアの飲食店街 (筆者撮影)

エムスフィアの施設内には、屋台風のお店が多数出店していて、タイ料理ばかりでなく、多くの国の料理を楽しむことが出来ます。

更にこの開発企業はエンタメ需要を一層開拓するため、バンコク東郊のバンナー地区にある約100万㎡の敷地に、2026年の開業を目指してコンサートアリーナ併設のショッピングモールの建設を進めています。

### 3 今後開業予定のショッピングモール

現在急ピッチで工事が進んでいるのが「**ワンバンコク**」です。「ワンバンコク」は総面積17.3万㎡の敷地に約5千億円(1,200億バーツ)を投資するプロジェクトです。地下鉄MRT ルンピニ駅直結の場所で、幹線道路沿いにあり、ルンピニ公園を見下ろすように立地しています。



「ワンバンコク」完成予想図

(株)三越伊勢丹ホールディングス公表資料。投資金額も引用。  
<https://pdf.irpocket.com/C3099/RLCz/y4XF/vUQk.pdf>

4つの商業施設・5つのオフィス棟・5つのホテル(5つ星)・住居・コンベンションセンター・ライブエンターテイメントアリーナなどが設置される、バンコク中心部最大の複合開発とされています。

こちらにおいて(株)三越伊勢丹ホールディングスが現地開発企業と合弁会社を設立し、「ワンバンコク」のオフィス事業と小売り事業に参入することが発表されています。小売り事業は三越ブランドでの出店が予定されています。



内装工事中の「ワンバンコク」のビル (筆者撮影)

現在一部のビルは内装工事に入っており、2024年第4四半期中に開業が予定されているビルもあります。今後2026年にかけて順次開業が予定されています。

これからも新しい施設の開業が計画されており、多くの観光客の来訪が期待されています。

ひょうご海外ビジネスセンターは、世界10カ所に海外展開現地相談窓口として「ひょうご国際ビジネスサポートデスク」を設置しています。

本通信は、毎月1回、各デスクから寄せられる現地トピックスを順にお届けするものです。